

防災用品・備えの心得

編集部

災害は時や場所を選ばずにやって来る。ゆえに、その備えは決して蔑ろにできない。かと言って、災害の発生を事前に正確に予測することも難しい。人生にないと思う運と災難——。どこかで聞いた格言だが、実に言い得て妙である。

600セット購入の法人も

もう20年も前になるだろうか。東京のある自治体が、非常持ち出し袋を各戸に配り、住民としてその提供を受けたことがある。布製の黄色い背負い袋で、いまでも懐中電灯にラジオ、飲料水、缶詰などを入れて、自宅の納戸に仕舞ってある。しかし、防災の日でもなければ、その中味に

思いを馳せることもない。

そうした最近である。我が家が万が一被災したときに、持ち出し袋の中味は、果たして実用に供するものかと、はたと考えた。人間の発想は、経験則や身近な状況から大きく逸脱しない。防災の日を機会に考える非常持ち出し袋の中身は、大規模地震だったり、残暑の厳しい晩夏だったりで、2リットル入りの飲料ペットボトルがあっても防寒寝袋が無く、カンパンはあってもトイレのことまで心配していなかったりする。

ところが災害は、内容も規模も、季節も場所も容赦せず襲ってくる。被災時の「サバイバル」を考えるとときには、さまざまな状況を勘案して実

用的な備えをしなくてはなるまい。そんな折り、防災用品の備えとして、良く吟味されていると感じたのが、セリングビジョンの「オリジナル防災セット」だった。その評価は、企業の防災関係者の間でも高く、昨年度の場合、電力系大手保守工事会社約6000セットをまとめて購入したという。

セリングビジョンは、東京電力の社内ベンチャー企業としてスタートし、法人向けのIT化提案や社員研修、ビジネス中国語検定などの事業で業績を伸ばしている。その中で、企業の危機管理対策においても、大規模地震や新型インフルエンザ対応など、さまざまな対策品の提案を展開しており、その一つのツールとし

て「オリジナル防災セット」を販売しているのである。

自社の防災思想からの品揃え

同社は、防災に対する基本的な考え方として、被災時において社員及び家族の安全を確保するために少なくとも、①とにかく「身の安全」確保、②「携帯電話の電源」確保、③「トイレ」の確保を挙げている。セリングビジョンのオリジナル防災セットでは、この考え方を基に、同社独



「オリジナル防災セット」とトイレセットの組み合わせ

自の調査や実際の試用を通じて、14品の防災品を厳選し同梱している。社長の岡部秀也氏をはじめ社員全員が、被災者の状況を想定して一品ずつを試し、十分に納得したものだけを選んだ。そのこだわりは、実に徹底したものがある。

具体的なセットの中味は、

- ・非常用持出袋
- ・ヘルメット
- ・ダイナモラジオ
- ・救急セット
- ・ホイッスルキーライト
- ・缶入りカンパン&缶入り水
- ・缶入りビスケット
- ・軍手
- ・携帯トイレットセットスリッパ
- ・マスク
- ・防寒寝袋
- ・防災タオル
- ・携帯レインコート
- ・防災ハンドブック

である。

個人向けの販売も増える

この14品の中で、とくに興味を引くのは、「ダイナモランタンラジオ」

だ。ラジオやサイレン・蛍光灯を搭載し、ライト部分には次世代の灯りとして注目されている白色LEDを装備している。同梱のケーブルを使用すれば携帯電話に充電できる。

また、セリングビジョンでは、同防災セットのオプションとして「災害・緊急時トイレセット」の追加を求めている。このトイレセットは、水が無くても使用でき、抗菌性凝固剤を使用しているので感染症を防げる。また、処理後は袋ごと可燃ゴミとして処分が可能。1セットで一人10回分(約3日分)使用できる。災害時に、水や食糧は確保されても、トイレに難渋したという被災経験者の話も聞く。そうした教訓を逸早く防災セットの中身へと織り込んだのである。

「オリジナル防災セット」の価格は、1セット1万3000円(税別)。同セットのほかに、「パーシック版」「ハイクラス版」「パーフェクト版」などもある。セリングビジョンによると、最近では法人向けの販売に加え、個人向けの販売も増え出しているという。